

2017年8月1日

国際モダンホスピタルショー2017

医療・介護・福祉関連製品を展示したイベント「国際モダンホスピタルショー2017」が、有明の東京ビッグサイトで7月12日～14日の3日間にわたって開催された。

今回のテーマは、「健康・医療・福祉の未来をひらく一連携と地域包括ケアの充実を目指して」。全国各地で取り組みが進んでいる地域包括ケア構築の実際を具体的に示す形となり、参加者は医療従事者を中心に8万人を超えた。

開催初日には、オープニングセッションが行われ日本病院会新会長の相澤孝夫氏が、『病院の機能分化と連携』をテーマに“医療計画の見直し”、“病床機能報告”、“地域医療構想と調整会議”をメインに病院の現況と課題について講演した。

また、展示場の入場口前でイベントのオープンに先立ち、日本経営協会による主催者挨拶や、厚生労働省・日本医師会・日本看護協会等の来賓や出展社代表、およびホスピタルショー委員長による挨拶に続いてテープカットなど開会式が行われた。

ホスピタルショウカンファレンスは、会期中7つのセッションで行われた。“電子カルテ活用”、“医療等ID・医療情報の利活用推進制度”、“病院の戦略的マネジメント”、“人工知能研究と医療応用”、“IoT活用が生み出す病院のあり方”など病院を取り巻く最新のテーマが取り上げられた。

出展者プレゼンテーションセミナーは、3日間を通じて26社により開催された。それぞれのシステム・ソリューションの特長と医療機関での活用の実際について、医療従事者・コンサルタント・メーカー担当者などが解説を行った。

展示会場内では、医療情報システムゾーン、医療連携・セキュリティ対策ゾーン、医用画像・映像ソリューションゾーン、医療機器ゾーン、健診・ヘルスケアゾーン、看護ゾーン、介護・福祉・リハビリゾーン、施設環境・アメニティゾーンの8ゾーンに分けられ、計344社により新製品などが展示された。

医療情報システムゾーンは、全8ゾーンの中で最大の116社が展示を行った。医療・介護・福祉分野へのICT導入・普及の成果がみられる展示となり、多くの来場者が足を止めていた。

以上